

日衛連NEWS

Japan
Hygiene Products
Industry Association

発行 / (一社) 日本衛生材料工業連合会

絆創膏をもっと深く知る

～傷の治癒をサポートするモイストヒーリング～

(一社) 日本衛生材料工業連合会 / 全国救急絆創膏工業会

絆創膏は、傷を覆って保護するだけでなく、傷が治る過程を支える役割へと進化しています。近年注目されている「モイストヒーリング」は、傷を適度な湿潤環境に保つことで、傷が本来持つ治癒力をサポートする考え方です。本資料では、絆創膏の市場や技術の変化、モイストヒーリングの基本的な考え方、家庭で活用する際のポイントについてご紹介します。

目次

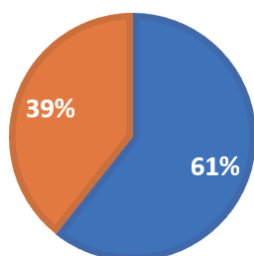
1. 救急絆創膏類の市場規模
2. モイストヒーリングとは
3. 傷の治り方
4. モイストヒーリングで傷の治りをサポート
5. 家庭でモイストヒーリングを行う際のポイント

1. 救急絆創膏類 市場規模(医療機器分類別)

2025年販売金額構成比

インテージSRI+1月～12月

■ クラスⅠ ■ クラスⅡ



約335億円市場

救急絆創膏類市場には、クラスⅠとクラスⅡのアイテムがあります。

一般医療機器 (クラスⅠ)

不具合が生じても
人体へのリスクがきわめて少ない
と考えられる医療機器。

救急絆創膏
「キズの保護」

主に、テープと不織布パッドで構成。



管理医療機器 (クラスⅡ)

不具合が生じても
人体へのリスクが比較的少ない
と考えられる医療機器。

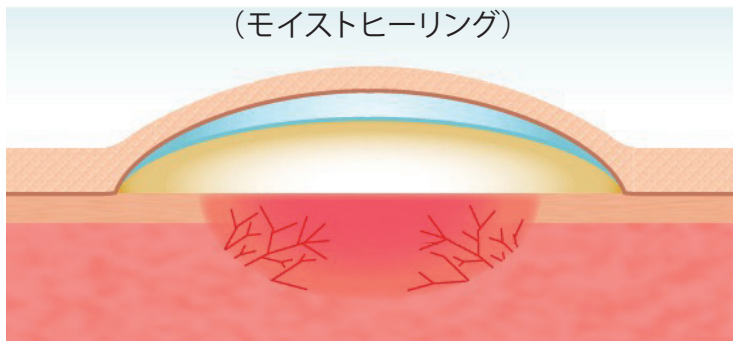
家庭用創傷パッド
「治癒の促進、痛みの軽減」

主に、ハイドロコロイド素材の
パッドで構成。

救急絆創膏市場では、傷の保護を目的とした基本的なタイプ(クラスⅠ)に加え、より高度な機能をもつ製品(クラスⅡ)も展開されています。近年では、傷を乾燥させずに適度な湿潤環境を保つ「モイストヒーリング」の考え方を取り入れたハイドロコロイドタイプ(クラスⅡ)が、高機能な絆創膏として普及してきています。

2. モイストヒーリングとは①

- **キズぐちを乾かさずに、湿潤な状態を保つことでキズの治癒を促進する**治療方法のこと
- ドライヒーリングよりもキズが早くきれいに治る



2. モイストヒーリングとは②

古代: 蜂蜜や植物などで傷を覆う湿潤に近い治療が行われていた。

中世: 感染対策として沸騰した油を塗布するなどの過酷な処置もあった。

近代: キズを消毒すると早く治ると考えられ、「**消毒による乾燥療法**」が主流となる。



1942年: ココナッツグローブ大火(アメリカ)での経験から、「**湿潤療法の有効性**」が見直される。消毒をせず、ワセリン(保湿剤)を塗りガーゼで覆うだけの治療が、それまで行われていた「キズを消毒し乾燥させる」治療よりも良好な結果を示した。

1960年代: ブタを用いた動物実験やヒトでの臨床研究で、**ポリエチレンフィルムでキズを覆う湿潤管理により、乾燥管理に比べて2倍早く治った**と報告され、治癒促進効果が科学的に証明される。

1986年: 創面を湿潤に保つハイドロコロイドの「**創傷被覆材**」が誕生。

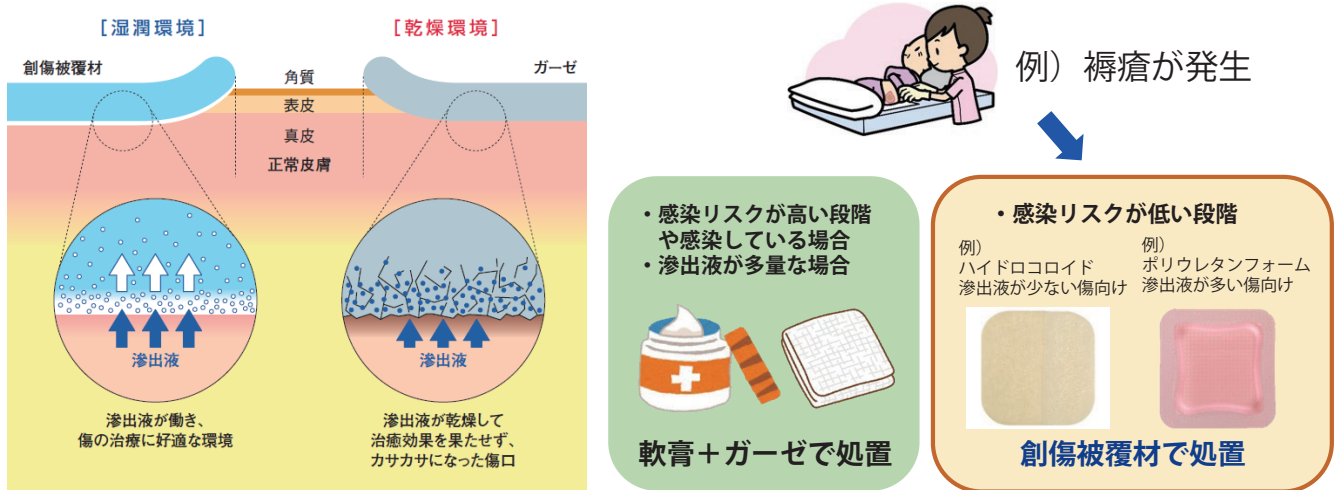
- 創傷被覆材が発売されたことで、1990年代からモイストヒーリングが普及。
- 2000年代 家庭向けのハイドロコロイド素材の絆創膏が発売され、一般家庭にも普及。

2. モイストヒーリングとは③

医療業界でのモイストヒーリングのアプローチ

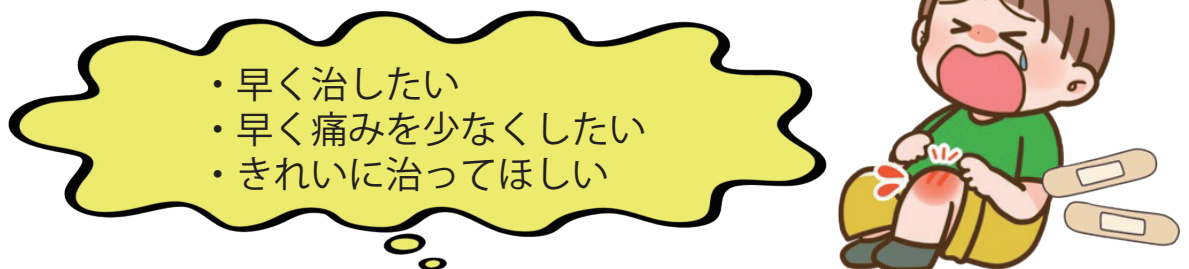
褥瘡、熱傷、切創、深い擦過傷など

感染していない「真皮に至る深い創傷」に対して、創傷被覆材を貼付する手技が標準的



2. モイストヒーリングとは④

医療用の創傷被覆材から、家庭で起こるキズのケアに



- パッド部がガーゼの一般的な救急絆創膏は「キズを保護する」のみ可能
- 家庭向けに開発された「ハイドロコロイド素材の絆創膏」はモイストヒーリングでキズを早くきれいに治すことが可能



3. キズの治り方

創傷治癒過程

＜キズが治るまでの4段階＞



赤血球



血小板



好中球



リンパ球



マクロファージ



線維芽細胞



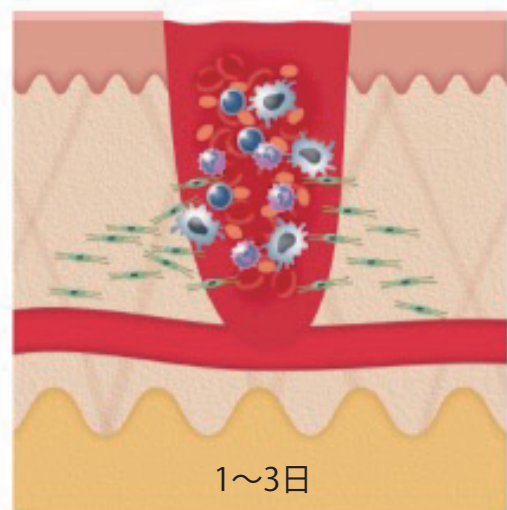
コラーゲン

① 出血・凝固期



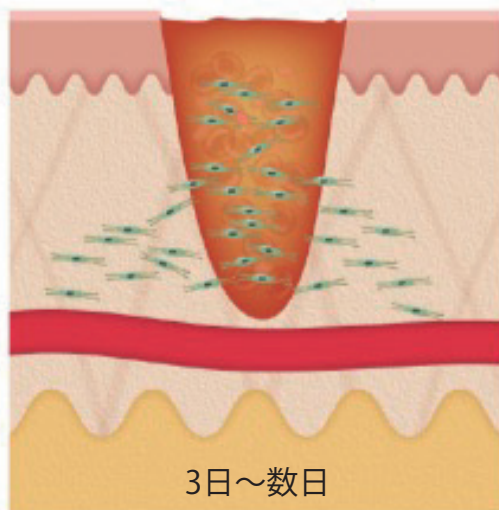
・血小板が凝集して止血を促し、血栓が形成される。

② 炎症期



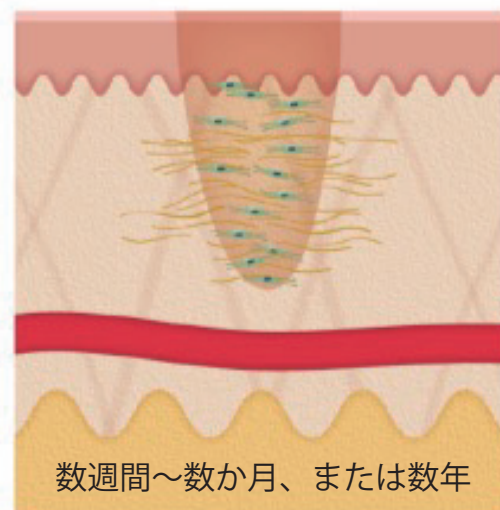
・白血球(好中球、マクロファージなど)が傷口に集まり、細菌や異物を除去する。
・炎症反応によって組織を浄化する。この間、発赤、腫れ、痛みなど炎症症状が起こることも。

③ 増殖期



・線維芽細胞がコラーゲンを産生する。そこに栄養を送るために新しく毛細血管もできる。これら「肉芽組織」によって傷口を埋める。

④ 成熟期



・線維芽細胞や毛細血管が消失し、コラーゲン線維が変化して肉芽組織が瘢痕組織に変化する。
・表皮細胞が遊走して創が収縮・閉鎖され、上皮化が完成する。

イメージ図

画像：https://medical-pro.kaken.co.jp/wound_burn/essentials/essentials_01.html

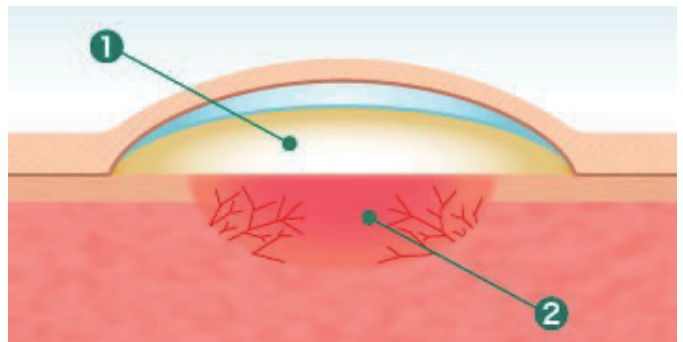
4. モイストヒーリングで傷の治りをサポート

～「早く」「きれい」な治療につながる理由/痛みを和らげる仕組み～

「滲出液」には、キズを早く治す力がある

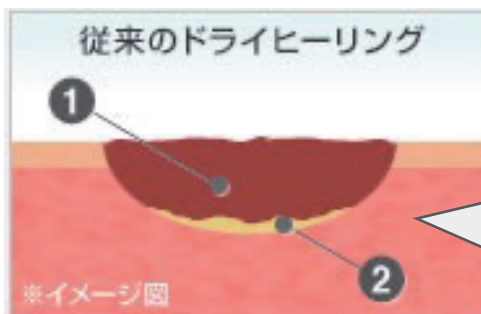
滲出液

- ・キズからにじみ出てくる組織間液のこと。
- ・タンパク質に富み、創傷治癒に関わる様々な炎症細胞、サイトカイン、細胞増殖因子などを含む。
- ・色は透明から薄い黄色。



滲出液に含まれる細胞増殖因子：

血小板由来増殖因子 (PDGF)、上皮細胞増殖因子 (EGF)、塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF)、トランスフォーミング増殖因子 (TGF- β)、結合組織増殖因子 (CTGF)、血管内皮増殖因子 (VEGF)



かさぶたができたから傷が治っているというわけではない

- ①創面の細胞は空気に触れると死滅する。
滲出液や血液などが固まり、かさぶたとなる。
- ②かさぶたの下に残されたわずかな量の滲出液では、キズの治りは遅くなる。

モイストヒーリングとは、この滲出液を適切に保持することで、傷が治るために必要な湿潤環境を整える考え方です

モイストヒーリングは「キズの痛み」も和らげる

- ・皮膚には、痛みを感じる神経が張り巡らされている神経を露出させたり、傷つけることで、痛みを感じる。
- ・**キズぐちが空気に触れると、神経が刺激され、痛みが増強**する。また、キズぐちが乾燥すると、さらに神経を刺激し、痛みを悪化させる可能性がある。

ハイドロコロイドで**キズを密閉**
(外部刺激から保護)することで
痛みが緩和する

*モイストヒーリングの考え方を取り入れた代表製品が、ハイドロコロイド素材の絆創膏です。ハイドロコロイドは、傷から出る滲出液を吸収してゲル状になり、傷口を適度な湿潤環境に保つことで、傷が治りやすい環境づくりをサポートします。



5. 家庭でモイストヒーリング行う際のポイント①

使用できるキズ

切りキズ、すりキズ、さしキズ、かきキズ、あかぎれ、さかむけ、靴ずれ等の創傷及び軽度のやけど

使用できないキズ(医療機関への受診推奨)

- 感染したキズ(キズの周囲が赤い、熱や腫れがある、ズキズキした痛みが続く、膿を持つ等の異常がある)
- 感染を起こす可能性のあるキズ(深いキズ、咬まれたキズ、ガラス・木片・砂・ほこりなど異物が入っているキズ、受傷してから時間が経過してかさぶたができて、浸出液や血液が乾いて固まっているキズ)
- 深いさしキズ、筋肉や骨や腱が見えるような深いキズ
- にきび、湿疹、発赤、虫刺され、皮ふ炎など
- 目の周囲、粘膜
- キズの周囲の皮ふに別の疾患がある場合

5. 家庭でモイストヒーリング行う際のポイント②

①水道水でキズぐちをよく洗う

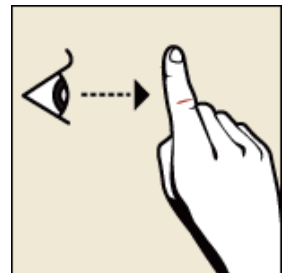
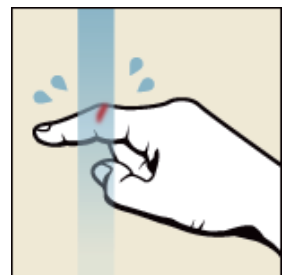
キズぐちに異物や細菌が残っていると感染の原因となるため、しっかりと洗浄する。
※消毒液は使用NG

②キズぐちを抑えて止血する

洗浄後、出血が続く場合は清潔なタオルやティッシュペーパー等でキズぐちを押さえて止血する。火傷の場合は、氷水などで冷やす。

③ハイドロコロイド素材の絆創膏でキズぐちを保護する

ハイドロコロイド素材の絆創膏を貼ることでキズぐちを湿潤環境に保ち、乾燥を防ぐ。2～3日に1回は絆創膏をはがして、創部を観察する。
※キズの大きさより大きいパッドサイズを選びましょう。



まとめのことは

傷の治療には、私たちの体が本来持つ力が働いています。モイストヒーリングは、その力が発揮されやすい環境を整えることで、傷の治療をサポートする考え方です。

身近な傷ケア用品である絆創膏の特徴を知ることは、より自分に合ったケアを選択する第一歩になります。